

# 研究成果の紹介

## イネいもち病保菌種子に対する各種防除法の消毒効果

イネいもち病の種子消毒において、種子内部の玄米に感染した高度汚染種子を供試し、高温加湿空気を用いた新手法、化学農薬4剤及び温湯消毒の防除効果を検討した。その結果、<sup>もみ</sup> 籾表面のいもち病菌に対して各手法、各薬剤とも高い効果が認められた。

### 内容

イネいもち病の主要な一次伝染源は罹病種子であり、それが原因で苗いもちが発生し本田に持ち込まれる。いもち病菌は通常、籾表面に生息する機会が多いが、種子内部の玄米まで感染する場合もある。そこで、籾表面に感染した汚染種子と玄米に感染した高度汚染種子を供試し、高温加湿空気を用いた新しい種子消毒技術、種子消毒剤4剤及び温湯種子消毒（60℃、10分）の防除効果を検討した。

その結果、いずれの手法も籾表面に感染した

いもち病菌に対して高い防除効果を有した（図1、写真1）。また、高度汚染種子の場合、ベノミル剤が高い効果を示すことが明らかになった（図2、写真2）。

### 今後の方針

高温加湿空気による消毒では、最適な処理条件や汚染程度の異なる種子での効果をさらに検討する。

内橋 嘉一（病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2448）

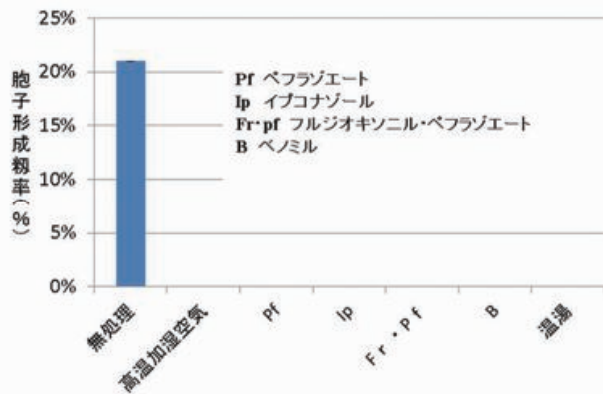


図1 籾表面に感染したイもち病に対する防除効果

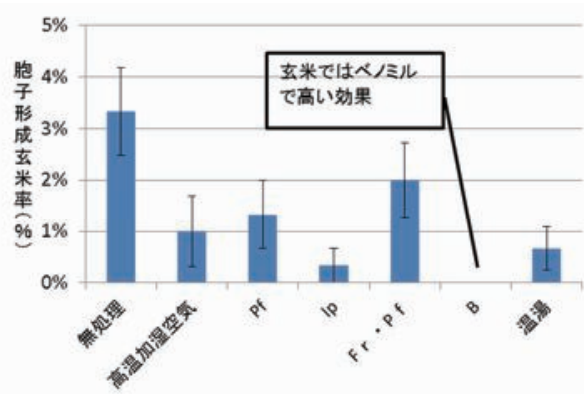


図2 玄米表面に感染したイもち病に対する防除効果



写真1 籾表面に感染した種子における消毒後の状況（孢子形成は見られない）



写真2 感染した玄米におけるベノミル区以外の消毒後の状況（籾内：少し孢子が見られる）